

春季研究大会報告「関東大震災をテーマとした地域学習」

—日本史探究を視野に入れて—

大磯高校 井上 渚沙

はじめに

2023年は関東大震災の発生から100年を迎える。関東大震災100年事業として、本年度は「ぼうさいこくたい2023」が神奈川県で実施された。東日本大震災以降、「防災」から「減災」の言葉が使われるようになり、あらためて地域の災害の歴史を学習する意義が高まっているといえよう。

関東大震災というと、朝鮮人の虐殺や社会主義者の処罰の研究が多くあり、教科書や資料集でもトピックとして大きく取り上げられている。一方で、地域の災害の歴史として触れる機会は少なかったと感じる。本報告は、新科目「日本史探究」が始まる中で、生徒の探究活動の実施にむけて、災害の記録や石碑などの記念碑に焦点を当て、生徒の疑問や課題の発見へ導く「探究学習」への手立てとなるよう単元を設定した。新設された「日本史探究」にむけた授業の一案として本稿を読んでもらうことができれば幸いである。

1 本校の概要

筆者の所属する神奈川県立大磯高等学校は、1学年7クラス、学期は前期・後期の二学期制である。2年次には文系・理系コースに分かれ、文系コース4クラスが日本史を学ぶ。本単元を実施したのは、日本史Bを選択している生徒138名である。(39名×3クラス、21名×1クラス)

本校は海のすぐそばに立地していることから、災害に関する生徒の意識が比較的高いほうである。校内でも防災委員によるDIG研修を毎年実施し、昨年には図書館にて箱根ジオパーク展が企画され自然災害について学ぶコーナーも設置された。しかし、生徒にとって2011年に発生した東日本大震災は、幼少期の記憶でしかない。東日本大震災を知らない世代が増える中で、関東大震災を学ぶことは今後起こると予想される首都直下型地震や南海トラフ地震などの大型災害への備えとしても価値があるといえよう。

本校は神奈川県西部の地区(平塚・小田原・大磯・湯河原の東海道線沿線)の生徒が多く所属している。そのため、横浜や東京などの首都ではなく、県西(大磯～小田原)の郷土資料を使った地域学習として興味関心につながるよう心掛けた。

2 単元構成

関東大震災を探究学習として扱うにあたり、生徒が学習をする意義を実感してもらうために、事前知識として、「(自然)災害の状況」・「災害による混乱」・「国内政治や経済への影響」の3点を十分に学ぶ必要があると考え、3時間構成+探究活動(レポートによるパフォーマンス評価)、全4授業で1単元として構成した。

生徒は史資料(地理雑誌・日記・伝承碑)を読み解く中で、資料ごとの内容の違いを学ぶ。また、それぞれの史資料を扱う際には教員側の説明も加え、その性質の違いを伝えるよう工夫した。日記は普段使うことのない資料なので、日記を記した本人の略歴も含め、資料背景についても説明を心掛けた。

さらにGIGAスクール構想の中で、一人一台端末が導入される中、本校でもiPadの購入

が始まり ICT を活用した授業の設計も求められている。iPad を探究学習で利用することを想定し、GIS（地理情報システム）、「国土地理院」の自然災害伝承碑マップの活用を取り入れ、地域学習を取り組みやすくするよう設定した。

【単元の目標】

- ・ 様々な史資料を用いて関東大震災の災害の状況や当時の人々の混乱を多角的に読み解く。
- ・ 関東大震災によって生じた、政治的・経済的な混乱を理解する。
- ・ フィールドワークを通して、地域の災害状況を自分自身で調べ、表現する。

時数	ねらい
1	<p>内容：関東大震災の被害を学ぶ</p> <p>問い：<u>関東大震災ではどんな被害が起こり、人々は何を残そうとしたのか？</u></p> <p>目標：関東大震災がどのような災害だったのか、『大磯町史』や『地学雑誌』国土地理院の「自然災害伝承碑」のMAPを中心とした資料を通して、神奈川地域の災害状況を読み取る。</p> <p>活動内容：1. 災害伝承碑がある場所を授業シートの地図にプロットする。 2. 史資料を読み、言葉や地名は各自インターネットを利用して調べる。 3. 各地域の被害状況をマップに記す。 4. 石碑の立地と被害状況の相関関係を考える。</p>
2	<p>内容：関東大震災の混乱を学ぶ</p> <p>問い：<u>関東大震災のあと、国内ではどんな「混乱」があったのか？</u></p> <p>目標：小田原町に住む1人の実業家の日記（『片岡日記』）を資料として扱う。知識構成型ジグソー法を用いたグループ活動を通し、災害時の混乱の様子を読み解く。（9月3日、9月27日、11月の日記記述内容）</p> <p>活動内容：1. 小田原市の災害状況の概要を知る。 2. A・B・Cの資料ごとに分かれて、個人作業で片岡日記の記録を読み内容をまとめる。 3. A・B・Cの資料を持つ生徒で集まって、資料の掲載内容を共有する。 4. 震災の後に発生した「国内混乱」を考え、まとめる。</p>
冬休み 課題	<p>内容：石碑から記録を読み取り、自分なりにレポートにする</p> <p>問い：<u>自分の地域から関東大震災の歴史を探す ～自然災害伝承碑から～</u></p> <p>目標：国土地理院「災害伝承碑マップ」から地元の伝承碑を探し、地域の災害状況や人々が何を残そうとしたのかレポートにまとめる。</p>
3	<p>内容：関東大震災後の政治・経済を知る</p> <p>問い：<u>普通選挙運動などの政治改革は成功したのか？</u></p> <p>目標：震災による政治・経済の混乱を理解し、普通選挙獲得の流れを理解する。</p>

3 おわりに 関東大震災をテーマとした活動を終えて 成果と課題

《成果》

複数の視点から史資料を読んだことで、生徒は「資料中の単語」に注目するようになった

たと感じる。関東大震災の授業を2回+レポートを行ったことで、生徒の関心も高まったようだ。特に日記資料を用いた授業は生徒にとって新鮮であったようで、普段使う公文書のような生徒にとって堅い内容ではなく、実体験のように感じたようだ。地元の人物の資料のため、登場してくる身近な地名にもよく反応を示していた。

レポート課題では、石碑中の言葉や数字に着目してその意味や疑問を見つけたり、石碑の設置場所、素材に着目したりする者もいた。もちろん、レポートの内容面や表現面で足りない生徒もおり、今後も継続して指導が必要であると実感した。

生徒からの感想は、興味関心を知るよいきっかけとなった。過去の同様の災害・ほかの石碑の意味・神社の役割・今後の記録をどのように伝承するかなど、さらに深い活動につなげることができるだろう。

初めは、生徒はフィールドワークに対して面倒くささを感じていたようだが、感想を見ると、友人と一緒に見学をしたり、図書館やネットでの情報収集や寺院での聞き取りをしたりする中で興味関心が沸いたなどの好意的なコメントを残してくれた。地域ごとに厳選した生徒のレポートを抜粋したプリントを配った際は、話し合いながら読み込む様子も見られた。フィールドワーク活動は、国土地理院 MAP のおかげでスムーズに実施でき、特に神奈川県西部は伝承碑の登録が比較的進んでいる地域であったため、ICT を利用した課題設定が比較的容易だった。地域をテーマにしたフィールドワークは今後も継続していきたいと感じた。

《課題》

まず1点目がフィールドワークの実践演習を事前にすべきであったということである。授業内でのフィールドワークの実施や、事前指導をすることができれば、さらにレポート内容の精度も上げることができ、情報収集の仕方や、地理的な着眼点も指導できただろう。そのためにも、単発的でなく、定期的、長期的な課題活動に取り組む必要があると感じた。教員がフィードバックを繰り返し、また方法を的確に伝えながら、生徒の自由な発想を促すことが今後の課題である。

2点目が発表・評価についてである。特に生徒同士のピア評価を行うことができれば、指摘しあう中で探究活動を深めることができるだろう。自分が調べた地域以外にも興味をもった生徒もおり、それらの関連性や比較ができると、より対話的な深い学びに繋がる。本活動では、「地域」をテーマに個人レポートとして扱ったが、個人活動を進めていく中で、探究した内容の発表機会を設けたり、今後評価の仕方を変えたりする必要があると感じた。

探究活動は長期的な目線で構成する必要がある。そのうえで、いかにテーマを設定し、生徒に資料を提示するか。また、40人学級が基本のクラス単位で、どのような活動・ゴールを設定するのかを精選する必要性を強く実感した。日本史探究が始まる中で、調べ学習にとどまらないよう模索していきたい。

《参考文献》

文部科学省「学校防災のための参考資料 生きる力を育む防災教育の展開」2012

森正人『文化地理学ガイダンス ―あたりまえを読み解く三段活用―』ナカニシヤ出版、2006

北原糸子『関東大震災の社会史』（朝日選書）朝日新聞出版、2011

大磯警察署編『大磯震災日誌』1924

神奈川県編『神奈川県震災誌』1927

小田原史談会編『片岡日記 大正編』2022

小田原市編『小田原市史 別冊 城郭』1995

小田原市編『小田原市史 通史編 近現代』2000

大磯町編『大磯町史 資料編 近現代』2001

大磯町編『大磯町史 通史編 近現代』2008

内務省社会局編『大正震災写真帖』1926

大磯郷土資料館だより Report38、2014

安田政彦『災害復興の日本史』吉川弘文館、2013

矢沢大二「我が国の地球科学界における地学雑誌 100 巻のあゆみ」(『地学雑誌』100 巻 19-62) 1991

平塚市博物館 HP「平塚周辺の地盤と活断層」

https://hirahaku.jp/web_yomimono/geomado/jiban00.html

内閣府 防災情報のページ「報告書 (1923 関東大震災)」

https://www.bousai.go.jp/kyoiku/kyokun/kyoukunokeishou/rep/1923_kanto_daishinsai/index.html

国土地理院応用地理部「自然災害伝承碑の取組について」https://www.n-bouka.or.jp/local/pdf/2019_12_16.pdf

国土交通省「国土地理院自然災害伝承碑」<https://www.gsi.go.jp/bousaichiri/denshouhi.html>

授業プリント 1 校時目

高校日本史 B 授業プリント No49

F 組 15 番氏名

関東大震災ではどんな被害が起こり、人々は何を残そうとしたのか？

関東大震災

関東大震災：1923年(9月1日)(現在の防災の日)12時ごろに発生。震源は相模湾沖。関東大震災首都東京を中心に死者・行方不明者は約10万5千人で、我が国の自然災害史上最悪。来年2023年は、関東大震災からちょうど100年を迎える。大正時代の神奈川に生きた人々が、どのような状況に合い、今に何を残そうとしたのか考えよう。

予想 関東大震災では、私たちの住む地域ではどんな災害や被害(人災も含む)があったらうか？
地震・火事・物資不足・液状化・地割れ・電気が止まる
建物が倒壊する・津波

災害伝承碑を調べよう「国土交通省国土地理院 災害伝承碑」
Q 災害伝承碑とは？

過去に発生した津波、洪水、火山災害、土砂災害等の自然災害に係る事柄が記載されている石碑

災害伝承碑の
地図記号



ワーク1 「国土地理院 MAP」から神奈川県にある「災害伝承碑」を下のマップにたくさんマークしよう



ワーク2 地図上の余白に被害状況を書き加えよう！分からない単語や地名・単位は調べてOK
1923年『大磯震災日誌(警察日誌)』『地学雑誌』の資料から神奈川県内の被害状況から読み解こう
①『大磯震災日誌』…大磯警察署の職員が作成した文書

9月1日(地震当日)からどのような活動をしたのか項目別で書かれている。

(大磯) 警の時計は午後零時十分、署長はその室に在りて昼食をとらんとし…各担当、事務を管掌したる利便、にわかに大震動起こり、大音響と共に庁舎震動、備え付け物品転落し、壁は剝落落下して、起立歩行困難。今や庁舎崩壊せんとす。署員は身をもって庁外に避難し、署長は署員の避難と震動の静まるを待つて署外にでる。この震動三分以上。署外は全壊、半壊の家屋の算なく、天空塵埃降臨として閉塞なく強烈の余震襲来し、鼓管(のちに鉄道で脱線事故と分かる)いづれにか発し、道路、空地に避難せる人々は驚き、また伏して顔色蒼然、ただ救いを求めむのみ。助下町方面より津波来ると叫号避難し来る者あり。平塚方面に当たりて、一大音響とともに黒煙天に沖し、その付近に白煙の縦横立ち昇るあり。大火災各所に発生せるを思はしめ、日光は光を失ひ、展望自由ならず。【大磯震災日誌】

津波

②『地学雑誌』…1879年創刊の地学専門家による近代地学の雑誌
専門家による関東大震災の様子記載されている。

河内地域の被害担出は一帯に被害が著しいのですが、特に酒匂川および鶴間川沿岸は著しいようです。これはいづれも地質の然らむる地である事他地方と同様ですが、なお一考する必要があるかと思ひます。

厚木、厚野、小田原の被害には火災を伴いましたが、焼け残りの地を見るとその被害は決して少なくありません。これに反して、二宮・大磯辺の被害は著しく弱く、これを平塚や国府津付近と比較して見てその差の大なるに驚きます。酒匂川沿岸は松田付近までも非常な被害です。【地学雑誌】

海濱はその襲来全般にわたらずして、豆積の地においては…
…富士付近、鎌倉及び片瀬付近において2.5~2.6尺にして最も高く、流失戸数は鎌倉730余戸、片瀬380余戸。片瀬の西方平塚、大磯より南方伊豆山にいたる間は、高さ1.0尺内外にしてほとんど被害なく…【地学雑誌】

ワーク3 考えよう 伝承碑が設置される地域(場所)と、されない地域(場所)の違いは何だろうか？

自分の意見
被害が大きいところに建てられる
海や川に近いところが多い

他の人の意見
人口が多いところに建てられる

Q 震災以降、どんなことが国内の課題として挙がってくるだろうか？

情報伝達、町の復興

授業プリント 2校時目

高校日本史B 授業プリントNo50 F組15番氏名

関東大震災のあと、国内ではどんな「混乱」があったのか？

Q 首都東京が災害にあうと起きるとどんな問題が起きるのか？ (どんな視点でもOK)

情報が入ってこない
重要機関が使えなくて混乱(政治)

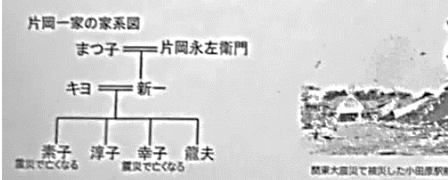
第21代 加藤友三郎内閣 1922年発足
しかし、1923年8月24日に発生。内閣総理大臣が不在の中で9月1日を迎える...!
前外務大臣の内田康哉が臨時首相として対応。
天皇の命令による(戒厳令)を発令し、事態の收拾を図ろうとした。

天皇による緊急勅令の一種
憲法と法律の一部を停止して軍隊が指揮すると
翌日9月2日、第22代(山本權兵衛 内閣)を発足

【片岡日記】から小田原市を例に、国内はどのような状況になったのか見てみよう

片岡左衛門 (1860~1943)
1860年(万延元年)小田原藩の本陣であった片岡家に生まれた。
明治22年(1889年)、29歳の若さで小田原町会議員となる。
以降、小田原町助役町長職務代理助役を歴任し、小田原町の行政に手腕を振るう。
明治38年(1905年)、藤沢銀行(現在の横浜銀行の前身)小田原代理店長に就任。

【片岡日記】...1902年(明治35)年から1934年(昭和9)年の記録が残っている。
日々の記録から、小田原の様子や片岡の目を通してみる事ができる。



関東大震災のあと、国内ではどんな「混乱」があったのか？

シートA 日記の日付(9月3日)
Q(震災直後に起きた混乱とは?)
小田原・倉八町 凶暴
木材などを持ち帰る → 警察動かない。
犯罪者・社会主義者 厄い → 市民混乱

シートB 日記の日付(9月27日)
Q(小田原で選挙の様子はどうだったか?)
軍隊・橋・道路 警備 → 市民感謝(小田原)
異学に発展して。
仕事関係で選挙に住みつく人が多く、発展して。

シートC 日記の日付(11月~)
Q(商店や銀行はどうだった?)
木材は震災前の高値になった。大工の需要が増えた。
箱根細工職人は大工に代わった。
東米は野菜の需要が少なくて、小田原は野菜が少なかったため価格が高くなった。
飲食店は震災前の収入が増えたと大工の倉庫にこころ。
銀行は閉店するところが多かった。

考えよう 震災が起こった後、国内ではどんな変化があるだろうか？ (どんな視点でもOK)
新しい町をつくろうと復興していた。 → 町の様子が変化した。
軍隊の人に感謝するために。 (異様に発展するところもあつた)
箱根細工職人が大工に代わった。大工に代わった人が多かった。
その大工が飲食店に行ったり収入が増えた? → レンボ屋のコンクリート造りになる
横浜・東京地域は(市)復興(市)が設立され、復興が急務に向かう。(長官・後藤新平)
しかし、他の地域の復興は、地域任せの復興となる。地元民による復興が神奈川(横浜以外)!

生徒のレポート

白組 26番氏名

日付・天気 ... (12月23日(金)、晴れ)

大震災犠牲者供養塔

所在地 ... 神奈川県平塚市丸町15-42 長楽寺

建立年 ... 1925年

伝承碑に書かれている碑文
正面 ... 大震災犠牲者供養塔
左側の面 ... 須賀村 犠牲者追悼名
一段に5名ずつの氏名
全て紙書きで設置された(痛め)
(須賀村は後に須賀町となり、平塚市の一部として)
1929年4月1日

右側の面
大正十二年九月一日関東大地震アリ
一府四縣未曾有ノ慘禍可哀ノ餘程横浜横浜
小田原等皆焼ケ果地ノ各地地被害甚大富村ハ
家屋倒壊死者甚多幸無事出ス
此惨禍ハ一朝ニシテ數十萬ノ生民ト數十億ノ財産ヲ奪ヒ
去リ災ニ悲劇ノ極ニ達セリ
茲ニ犠牲者ノ三回忌ニ當リ供養塔ヲ建設シテ永遠ニ
銘記シテ追悼スルモノナリ
大正十四年九月一日 敬願者 長楽寺 第二十五世住持 橋本

お祭りの内容
① 今年に経度したことの無いような大震災が発生し、
当村には60名もの犠牲者を出した事。
② 三回忌に供養塔を建設した事。
③ 供養塔は震災を永遠に記念し、犠牲者を追悼する
ためのものである。
※ 一の数が異なるのは村外に死者が居た可能性がある。

須賀村
→ 総人口約388人(1920年)
市の界隈内に須賀村にあたる。
★ 伝承碑の位置

F組 16番氏名

行の日付: 2023年1月3日(火)

天気: 晴れ

石碑の名称
関東大震災伝承石碑

建立年
不明

所在地
神奈川県高座郡寒川町田端824

伝承石碑の内容
関東大震災で破壊した鳥居
石柱に「嗚呼 大正十二年九月一日
又大震災」と刻まれている。
左奥の一本は「治田塔五年五月建立」
の文字が残り、明治の末年にこの鳥居が
作成されたものと推定される。

石碑の周辺の様子
西側には相模川が流れている。
北側は平地で田舎な感じがする。
現在は寶船神社という神社の敷地。
西側の相模川沿いには工場もたくさんある。

気づいたこと・感想
現在でも田舎な感じがする。当時津波などで農業の被害
が甚しかったのではないかと感じた。
この場所以外にも周辺に石碑が多いため、相模川付近での被害
の多さがよく分かった。
石碑のもともとなっていた破壊された鳥居の礎石から頑丈な石でできていた鳥居
でさえ破壊された地震の規模の大きさがよく分かった。